



Tohoku University DRR Actions  
Contributing to Global Disaster Resilience

資料3

# 政治分野における男女共同参画に関して — 地方政治の分野を中心に —

東北大学大学院情報科学研究科

河村 和徳



## 最近の気になる動き

- 山形県の事例（県知事選挙で女性対決、衆院山形3区も女性対決に）
- 岐阜県岐南町の事例（正副議長に女性議員が就任）
- 山元町の事例（何十年も女性議員がいなかったのに、震災後に女性議員が3人誕生）
- 衆院宮城5区の実例（神輿としての女性候補）



## 本報告につながる根本的な問い

- なぜ「地方議員のなり手不足」が叫ばれているのに女性議員が擁立されないのか？（とくに郡部）

日本の地方議員選挙の特徴として、①個人の政治的資源に依存する選挙制度、②郡部ほど地区割り選挙、③政党政治を忌避する傾向、がある

→ 仮に個人として資源を持っていなくとも、②の立場から擁立は可能にもかかわらず…

→ 担いだ前と後とで意識が変わる有権者は少なくないという事実も



## 制度改革と意識改革の必要性

1. ステレオタイプ(バイアス)が形成されているのではないかと  
  - これまでの歴史がかえって女性が政治に進出しづらい意識をつくっているのではないかと
  - 女性を意図的に立候補してきた選挙戦略も影響している可能性も
2. 制度的に男性に偏りやすい制度になっているのではないかと  
  - 議会制度の形成後に女性が進出するようになった歴史
  - 選挙制度的に女性は不利なのではないかと



## 「ガラスの天井」を破るだけでは・・・

- 偶発性への依存
  - 天井を破ってくれるロールモデルを意図的に作りださなければならない
- 当選がゴールではない
  - 女性政治家が継続的に評価され続けないと、「厚い天井」が再生される（女性だから失敗したという揶揄）



# 女性を地方議員の候補者となぜできないのか(しないのか)

## • 考えられるアプローチ

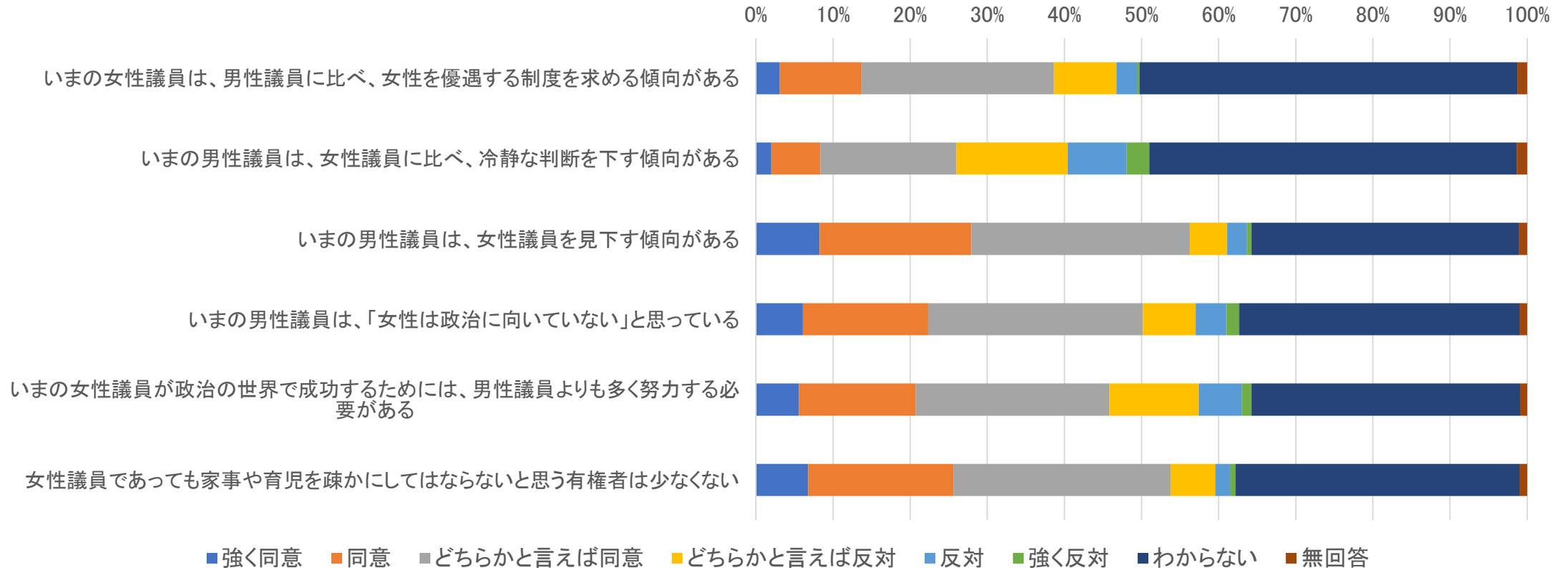
- 現職や立候補を希望し断念した者の声を聞く(NHKスペシャル取材班 2020、内閣府男女共同参画局委託事業「女性の政治参画への障壁等に関する調査研究報告書」

[https://www.gender.go.jp/policy/seijibunya/seijibunya\\_shiryo.html](https://www.gender.go.jp/policy/seijibunya/seijibunya_shiryo.html)

## • 立候補者を担ぐ側の声を聞く

- 担ぐ者の認識を確認する…そもそも女性を候補者プールに入れていないのではないか、「**自らは担いでもいいと思うが自分以外の有権者はそう思っていない**」と認識しているのではないか

## 検討 一般的な言説に対する回答結果





## 世論調査から導き出される女性議員像

- 「母であり、妻であり、政治家である」という女性議員像がイメージされている
  - 個別に聞くと見えてこない回答（議員像にも同様の傾向がある）
- 女性政治家を増やすべく、女性無形の政治塾が開講されていたりするが、出馬したい女性を増やすだけでは十分ではなく、やはり全体の意識を変えるための働きかけ（制度改正なども含む）が必要



## 意識を変える上で大事なことは…

- 女性だけではなく、多様な人材が議会に進出することを前提とした環境づくり
  - 「内なる改革」…現行制度の下で実践できる取り組み
    - 女性が参画する上で不都合となる環境を確認し改善する
      - 出産・育児できる環境などを整える(欠席事由にするなど)…出産議員ネットワーク・子育て議員連盟(東京都豊島区)(2021マニフェスト大賞最優秀賞)
      - 周産期でも議会に参加できる仕組みづくり(デジタル・インクルージョン)…地方議会のデジタル化(全国都道府県議会議長会デジタル化専門委員会の検討)

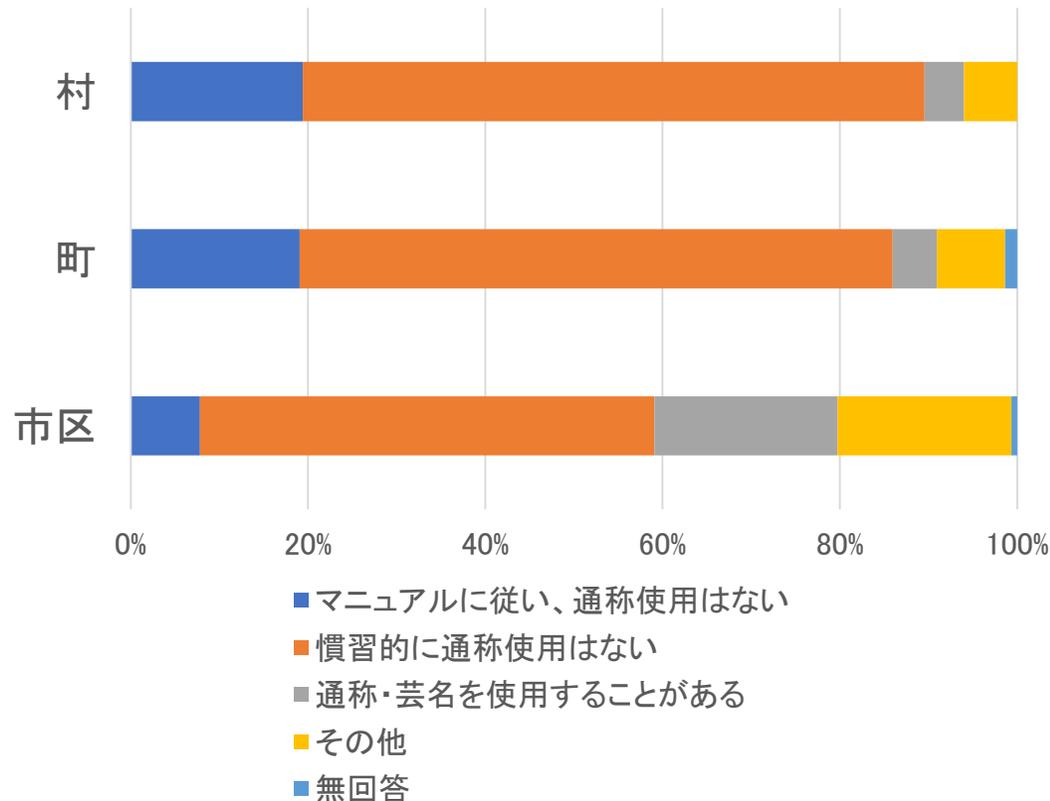


## 意識を変える上で大事なことは…

- 女性の声を聞く場をつくる
- 女性が立候補しやすい環境(候補者プールをつくる)…私との関係では白山市議会や大和町議会の取り組み
- 「外からの改革」…現行制度の変更など外生的圧力による改革
  - 法制化した方がよいものを提言
    - 選挙制度の見直し…クォータなど
    - 議会制度の見直し…デジタル化に伴う地方議会本会議における出席の見直しなど



## 議事録等における通称使用の状況



- オープンデータ政策との齟齬がある
  - AIに読み込ませようとする、別人として判定される
  - 「通称」ではなく、政治家として活動する名前を統一するか、政治家IDを発行しないと意味がない



# 世論調査の回答から見た女性を増やす方策

選択肢	全体	北海道・東北	関東	中部・北陸	近畿	中国・四国・九州	男性	女性
女性に限定した候補者の公募	21.3	18.9	19.8	21.4	21.9	25.0	23.0	19.7
女性候補の選挙運動を政党が積極的にサポート	32.9	24.2	34.9	34.4	34.9	31.3	34.6	31.3
政党助成金の傾斜配分	8.1	5.3	7.9	8.3	11.5	7.1	8.8	7.4
出産・育児休暇や手当の充実	50.8	50.0	52.7	43.8	52.6	51.7	48.0	53.5
男女ペア立候補制導入	4.8	3.8	3.8	6.3	3.6	6.7	6.4	3.1
クォータ制導入	26.5	21.2	25.0	29.7	30.7	26.3	26.9	26.2
地方議会選に比例代表導入	5.8	9.1	5.9	3.6	6.3	5.0	7.1	4.4
地方議会に託児スペース等整備	35.7	35.6	35.4	32.8	37.0	37.5	31.9	39.3
旧姓使用の許可	15.7	22.0	15.1	13.5	14.6	15.8	15.0	16.3
セクハラ対策	46.3	54.5	42.6	45.8	48.4	47.5	43.6	49.0
無回答	7.8	4.5	9.5	8.9	3.6	8.8	8.3	7.2

(多重回答、4つまで)



## 世論調査の回答から見た女性を増やす方策

選択肢	10代 (15 ~19歳)	20代	30代	40代	50代	60代	70代
女性に限定した候補者の公募	12.2	24.3	21.4	17.6	23.1	26.3	18.8
女性候補の選挙運動を政党が積極的にサポート	39.2	33.8	35.3	30.3	34.4	32.1	29.4
政党助成金の傾斜配分	5.4	6.8	5.3	7.7	8.6	11.6	8.8
出産・育児休暇や手当の充実	56.8	53.4	58.8	53.4	46.2	41.1	51.3
男女ペア立候補制導入	9.5	8.8	4.3	4.1	4.3	2.7	3.8
クォータ制導入	14.9	13.5	26.2	28.1	19.9	37.9	33.8
地方議会選に比例代表導入	12.2	5.4	5.3	4.1	2.2	8.9	5.6
地方議会に託児スペース等整備	29.7	32.4	35.8	33.0	37.1	34.8	44.4
旧姓使用の許可	10.8	14.9	17.6	18.1	14.5	15.6	14.4
セクハラ対策	35.1	41.2	47.1	44.3	55.9	45.1	48.8
無回答	16.2	10.8	4.3	6.3	6.5	7.6	8.8



## 女性を増やす方策

- 男性と女性の当事者意識のずれ
  - セクハラ対策や託児スペース、出産・育児手当などで有意な差（当事者としての共感が〇につながっている）
  - 男性は女性限定公募などに〇をつける傾向
- クォータ制、女性限定の公募を指摘する声はあるが、意外に選択されていない
  - 周知が不十分？、地域ギャップや世代間ギャップがあるのでは？



## 郡部の地方議員選挙の問題・・・歴史的連続性への配慮の必要性

- 個人の政治資源に依存する選挙制度
  - なぜ引退する男性地方議員は、後継者を男性に指名するのか？なぜ地方議員のなり手不足が叫ばれているのに、女性に声をかけないのか？
- 過去に形成されてきたステレオタイプとそれを利用した選挙
  - 「おんなに政治はできない」
  - 女性政治家はバックが必要（政党、後援会・・・）



## 選挙制度の変更の可能性は？

### 【方策1】政党中心の選挙、とりわけ比例代表制に変える

- 比例代表制は、候補者の有権者の分布にあわせて候補者を擁立せざるをえない(偏ると集票が厳しくなる)
- しかし、政党中心の選挙を忌避する傾向は強い(2つの理由)

### 【方策2】クォータの導入

- 擁立プロセスに対する政治的介入…選挙の原則(普通選挙、自由選挙)に抵触するとみなされる可能性も
- ジェネレーションも必要になるのでは？

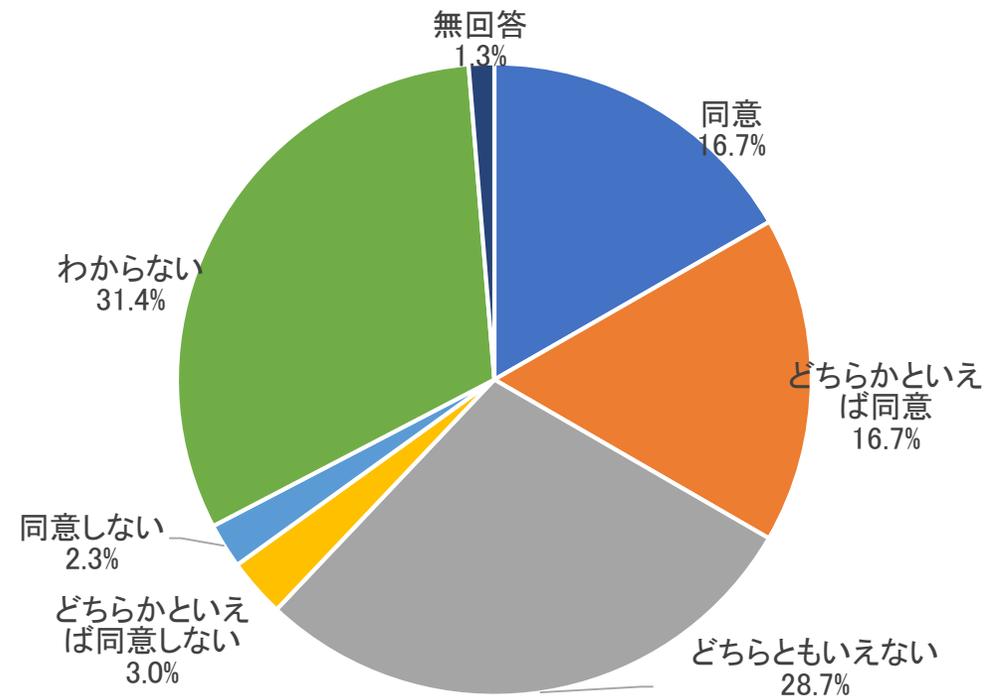
歴史的連続性を考えると容易ではない

## 「忌避される地方における政党・団体中心の選挙

- 中央の政党対決を持ち込むことを忌避する地方議員、そして保守系の有権者の存在（地方議会・地方議員のあり方に関する研究会）

⇒ クォータに対する拒否権プレイヤーになる？

地方に政党対決を持ち込むべきではない





## 「変化球」を投げてみる必要？

- 政治分野の男女共同参画の「1つ前」を意識
  - 候補者プールをどうすることも大事だが、候補者になり得る者を別の形で発掘する→ クォータが効くところを意識する
- たとえば…
  - 議会アドバイザー制度という仕掛け
  - 農業委員会が公選から指名へ変化し、女性の比率が高まる → なり手としての認証(3バンのカンバン)という側面



## 参考文献

- 河村和徳. 2020. 「地方議員のなり手不足問題をどう考えるか」『選挙研究』第36巻第2号、25-38頁。
- 河村和徳・伊藤裕顕. 2017. 『被災地選挙の諸相 現職落選ドミノの衝撃から2016年参院選まで』河北新報出版センター
- 内閣府男女共同参画局委託事業 コーエイリサーチ&コンサルティング 2021. 『女性の政治参画への障壁等に関する調査研究報告書』。
- NHKスペシャル取材班. 2021. 『地方議員は必要か 3万2千人の大アンケート』文春新書。

ほか